



学校だより 第10号

木城町立みどりの杜木城学園

2月椎の苗木



令和7年2月13日(木)
文責：教頭 黒木 義昭

ふるさとの伝統を知る ~南郷神門神社の師走まつりへのお見送り(1/17)~

「師走まつり(神門御神行祭)」は、百濟王族の親子が年に一度の対面をするお祭りであることはよく知られていますが、その行き帰りの神事のことをご存じでしょうか。・・・比木神社に祀られている福智王(ご神体)が、神門神社の禎嘉王に会いに行くことを「上りまし」というそうで、このご一行を4・7・8・9年生が沿道からお見送りしました。千年以上続くこのお祭りですが、長友道泰さん(学校運営協議会会長／福智王四十八隊代表)の呼びかけで、初めて子供たちが見送ることになりました。

本校では主に総合的な学習でふるさと木城を素材にして学びますが、この学びを通して地域の伝統行事を知り、それを体験することができます。それがひいてはふるさと木城を大切にし、誇りと愛着をもつ子供たちになってくれるであろうことを願い信じて、これからも地域に根差した教育活動を充実させていきます。



災害に備えて① ~地震避難訓練(1/8)~

1月に日向灘を震源とする震度5弱の地震があり、「いよいよ南海トラフ地震が現実味を帯びてきたか」と身をすくめた方も少なくなかったのではないでしょうか。大きな被害の報告もなく安堵しましたが、とっさの揺れに、ご家庭ではどのような対応をされたでしょうか。そしてお子さんの様子はいかがだったでしょうか。



学校では、このちょうど5日前に地震を想定した避難訓練を行っていました。今回は事前に知らせらず、授業の途中に地震(訓練)を知らせる放送を入れました。大半の子供たちは騒ぐことなくサッと机の下にもぐり、身の安全を確保しました。2度目の揺れ(余震)への対応も訓練し、負傷者が出了ことを想定した職員の動きや連絡体制の確認もしました。地震はいつどこで起こるか分かりません。ぜひ、ご家庭でも、様々な時間や場面を想定して、どのような対応をするのか、そしてどこに避難するのか、確認をされてください。

災害に備えて② ~防災ヘルメット贈呈式(1/31)~

地震等の災害時に子供たちの安全を確保するために、木城町から防災ヘルメットをいただきました。そこで、半渡町長と恵利教育長においでいただき、校長室にて贈呈式を行いました。ヘルメットは職員や来



客用含めて592個あり、主に各学級に保管し、非常時にすぐに使えるように指導をしました。使う機会が訪れないことが一番ですが、心強いご配慮に、安心感と感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

木城の給食は最高！～ 給食感謝集会（1／21）～

「食は生きる力」と言われますが、木城学園の子供たち、そして私たち職員は、栄養満点のおいしい給食を毎日食べることができ、本当に幸せです。(毎日の給食は木城学園ホームページでご覧いただけます。) その給食の有り難さを再確認し、感謝の気持ちを共有し、表現する場として、児童生徒会が中心となり給食感謝集会を開きました。

今回は「残菜ゼロ」をテーマに、給食委員会によるマナーの確認。8年生の動画による給食の様子の紹介。ペロリ賞（調査による残菜の少ないクラス）の授与などがありました。とりわけ給食委員会の7年生の発表は、食べ残しをしない取組とSDGs（持続可能な開発目標）を結びつける内容で素晴らしいものでした。これからも、楽しく、残さず、おいしい給食をいただきます！



先輩に元気をもらいました～郷土の先輩講演会（2／7）～

金田 誠一郎 氏
木城町比木出身



俳優・ダンサー・演出家・振付家
映画「ゴールデンカムイ」等に出演

木城町出身の俳優、金田（かなだ）誠一郎さんにおいでいただき、リバリストホールにて第Ⅱステージ（5～9年）を対象に「声も、言葉も、おもしろい！」という題目で講演をしていただきました。ご登場からお話の最後まで、途切れることなく元気いっぱい、ステージからフロアに走り降りての学園生とのやりとりやお話など、エネルギーをいただきました。声に出すこと、言葉にすること、これからも大切にしていきたいと思います。

耕心コーナー 学園生の姿

立春を過ぎ、そろそろ梅の開花の便りが聞ける頃だと思います。「梅は百花の魁（ひやつかのさきがけ）」の言葉があります。その意味は、その年のどの花よりも早く咲くのが梅である。また、優れた人物などが輩出する時、先陣をなすもののたとえもある。

一年近く、学園生とともに過ごしてきましたが、本当に素晴らしい学園生のキラキラと輝く姿を見てきました。これから時代、自らの夢に向かって、自ら先陣をきって何事にも挑戦していく人財が育っているのではないかと嬉しく思っているところです。これも保護者の皆様、地域の皆様の温かいご支援のおかげだと感謝いたします。

次の言葉は、日々、私自身が学園生と接する中で感じていることを表したものです。

みどりの杜木城学園生

志を立て、身を鍛え、自ら学び活動する姿は、
たのもしき学園生の心の現れである。

友情を深め、学年を越えて親しく交流する姿は、
うるわしき学園生の心の現れである。

新しい校舎に感謝し、さらに磨き整理整頓する姿は、
誠なる学園生の心の現れである。

ふるさと木城を愛し、母校を愛し、

共に成長しようとする姿は、

誇りある学園生の心の現れである。

学園生は、まさに学園、家庭、地域の宝である。

（校長）・ホームページをご覧ください。